

Q63. 副甲状腺機能亢進症で、手術をしたら関節痛がよくなるのでしょうか。

A.

前の質問であったように、初期から中等度の副甲状腺機能亢進症では、リンをコントロールしつつ経口のビタミンD製剤内服や静注ビタミンDパルス療法などで内科的に薬物治療を行います。それらの薬物治療ではコントロールできないほどの高度の状態になると、腫大した副甲状腺を外科的に摘出する手術（PTX）を行います。また一部の例では、その副甲状腺にアルコールを注入して働かなくする経皮的副甲状腺内エタノール注入療法（PEIT）とか、副甲状腺に直接ビタミンDを注入するPITという処置を行ったりします。

この副甲状腺摘出術（PTX）を行うと、たちまち副甲状腺ホルモンの値は低下し、それにともない骨の痛み（主に背中や膝、かかとなど体重が加わる部分の骨や関節の痛み）は急激に改善することがあります。また、関節周囲に石灰化があり、痛みが起こっている場合などは、すぐにではありませんが、この手術によりカルシウム、リン積が低下すると徐々に痛みが軽くなってくることもあります。

しかし、骨の痛みといっても色々な原因が混在していることもあり、このホルモンが過剰なために起こっている痛み以外の症状は改善しない場合もあります。例えば、関節に他の原因で炎症が起こっている場合やアミロイドという物質が沈着していたり、関節がすり減っている場合などは手術しても痛みが変わらないこともあります。

医師